

平成 28 年度第 1 回 ISO/TC46/SC8 国内委員会議事録

1. 日時：平成 28 年 7 月 22 (金) 18:30 ~ 19:40

2. 場所：情報科学技術協会会議室

3. 出席者：委員

水嶋 永治	国立大学法人筑波大学(SC8 リーダー)
永田 治樹	国立大学法人筑波大学名誉教授 (Skype 参加)
鈴木 加奈子	学校法人立教大学
中井 恵久	国立国会図書館
小泉 史子	公益社団法人日本図書館協会
菅野 朋子	国立大学法人東京大学
戸田 あきら	学校法人文教大学学園
濱田 浄人	独立行政法人国立科学博物館
事務局 光富 健一	一般社団法人情報科学技術協会
ワザバ 徳原 直子	国立国会図書館

4. 配布資料：『平成 28 年度第 1 回 ISO/TC46/SC8 委員会議事次第』

(資料 1)「平成 28 年度実施計画」

(資料 2-1)「デジタルアーカイブの利活用に関する国際標準化」

(資料 2-2)「デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子」

(資料 3)「ISO/TC46/SC8 ウェリントン総会報告」

(資料 4-1)「投票済み案件」

(資料 4-1)「投票審議案件」

5. 議事：

水嶋リーダーにより議事を進行し、各資料に基づき説明があった。

5-1)議題 1「平成 28 年度実施計画」(資料 1)、議題 2「計画進捗状況報告」(「デジタルアーカイブの利活用に関する国際標準化」(資料 2-1)、「デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子」(資料 2-2))

資料に基づき、事務局からの説明及び永田委員からの補足があった。

- ・WG1 により“ Description and presentation of rights information in digital collections ”が NP 提案された (2016/7/3) (資料 2-1)。
- ・国際図書館資料識別子 (ISO 20427) について、CD 投票が実施され、成立した (資料 2-2)。「ISCI 部分のピリオドと識別子のピリオドの区別」について、コメントが寄せられたが、例外的なものであり、技術的に対応可能であるとのこと。

- ・ SC8 においては、これまで積み上げられた国際規格並びに技術レポートを参考に、その課題や解決手段を検討し、結果を共有することで、WG1 での NP 開発活動の補助とすることが課題であり、何らかの取り組みが必要。
- ・ 3 年間のうち 2 年目の実施計画であるが、あまり進行していない。
- ・ 来年には、次の年の提案を考えることも必要。

5-2) 議題 3 「ISO/TC46/SC8 ウェリントン総会報告」(資料 3)

- ・ TC46/SC8 の WG はほとんど行われず、次回(ベルリン)で行なう予定(10月)。
- ・ WG11 Museum statistics : ISO18461 : "International museum statistics"は完成、新たにパフォーマンス指標(ISO/NP21246)が出ている。
- ・ WG12 Archives statistics : ベルリンで ISO19580 の 1 案を出したい、とのこと。
- ・ WG7 National Libraries : 新 WG を立ち上げている。
- ・ ISO/NP 21248 : "Quality assessment for national libraries"について、国立国会図書館から「国会図書館の使命と目標について」コメントを提出した。
- ・ 図書館統計(ISO2789)、図書館パフォーマンス指標(ISO11620)が、改訂。

5-3) 議題 4 「ISO/TC46/SC8 国内審議」

- ・ 投票済み案件(資料 4-1)について報告があり、有田委員、中井委員が各々エキスパートとして登録された。
- ・ 資料 4-2 について、締切までに回答を検討、投票することを確認した。

5-4) その他

- ・ JIS-X0814 について、7/26 までに確認する。その後、規格調整会議にかかる。年内刊行は難しい状況。
- ・ 10 月ベルリン会議の参加者について、調整する。
- ・ JIS-X0812 (ISO11620) の更新が出ているが、JIS の更新は 1 回見送ってはどうか。日本規格協会に打診している。
- ・ Impact 評価の JIS 化について検討が必要。1 版については Impact 評価の手法が書かれているが、内容的には物足りない感がある。
- ・ JIS 化の承認が難しいことがある。Impact 評価について、翻訳だけする、という方法もある。「図書館パフォーマンス指標」のように、先に翻訳・内容紹介をしてから、JIS 化となった例もある。選択肢を広げるひとつとして検討してはどうか。
- ・ 翻訳されると役に立つと思う。
- ・ 内容的な物足りなさについては、国内独自で追加することも可能である。
- ・ 「実施計画」で成果を期待されているところもあるので、一度、WG1、WG2、事務局で一度確認をし、今後 SC8 の取り組むことについて、あらためて提案、相談したい。
- ・ JIS 化については、日本規格協会が年 3 回実施する公募に応募し採択される。Impact 評

価についても相談（提案）することは可能。

- ・ 内閣府の知財事務局の動きについて情報提供。「デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会 中間報告」が出された。また、今年度は、「メタデータのオープン化等に関するガイドライン」を策定予定で、来週末（29日）の実務者協議会では、協議会の下にWGが設置される予定。
- ・ 日本図書館協会で、今後のJLAの図書館調査について検討する「図書館調査の在り方検討会」が立ち上がった。当委員会からも委員が参加している。
- ・ 来年2月に、情報科学技術協会が建物建替えのため移転する。移転先は日本図書館協会会館（中央区新川）。

以上